

慶應 SFC 学会(A)研究成果発表(海外学会発表)

慶應義塾大学 政策メディア研究科 2年 渡邊紗恵子

1.発表概要

イギリス・グラスゴーで開催された国際学会、「EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE」に参加し、ポスター発表を行った。以下の表に発表の概要を表す。

名前	内容
タイトル	公立中学校の部活動におけるライフスキルプログラムの開発
発表形式	ポスター発表
学会	EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE
参加期間	2024/07/02-7/04

2.研究概要

本研究は、大学生(院生)による、部活動に所属する中学生に向けた達成経験をサポートするライフスキルプログラムの開発を目的とした。現在部活動は地域への移行が決まっているものの、学校教育の目的を踏まえながら、地域人材が効果的に関わる方法は明らかにされていない。そこで今回はプログラム開発の前に、神奈川県 S 中学校の部活動(ソフトテニス部・サッカー部)の運営現状を顧問教員、所属している部員の両方の視点から明らかにし、得られた知見をもとにプログラムを構築した。

フェーズ	実施月	テーマ	内容
序盤	2023年9月	プログラムに参加する動機を高める	① プログラムに対する動機付け
	2023年10月		② マインドセットの統一
中盤	2023年11月	チームと個人の目標を設定する	③ チームの目標設定
	2023年12月		④ 個人の目標設定
終盤	2024年1月	目標達成の方法と振り返りの方法を学ぶ	⑤ 課題解決方法
	2024年2月		⑥ 日々の習慣化
	2024年3月	振り返りをして学びを实践で使いやすくする	⑦ 半年間の振り返り

図 1. プログラム内容

3. 発表成果

発表は1時間にわたり、設けられたブースにて行った。その間、いくつかの有意義なディスカッションを参加者で行った。まず、多くの参加者からプログラムの内容について質問があった。特に、日本の中学校の部活動の現状やプログラムの効果についての質問が多かった。日本において部活動が教育的な意義を有していること、ただしインタビュー調査からも明らかになっているように従来の形態ではうまくいっていない部分があること、学校だけでは支えきれない部分を地域の大学生とともに活動を行うことの有効性について賛同を得ることができた。しかし、今回の調査対象が一枚であることから、より多くの中学校に対する調査を行い、部活動の実態を明らかにすることで生徒への介入の方法を検討すべきとの意見もいただいた。

ポスター発表以外にも、他の参加者によるオーラルプレゼンテーションを聴講した。特に、ソフトテニス部の生徒に向けたコーチングの実践や、ライフスキルプログラムを小学校の教員に向けて行った実践研究が、本研究の今後の参考となった。

4. 今後の展望

東海林研究会に所属する大学生メンバーが引き続き同中学校に向けたプログラムの開発、実施を行なっていく予定である。プログラムを実施していくことも意義のあることではあるものの、今回指摘を受けた、部活動の現状の調査に関してはプログラム構築と並行してより広範囲での調査や他の部活動での調査も行う必要がある。部活動が生徒にとってスポーツ技能を高めるだけでなく、教育的な意義も得られるような場にし続けるために今後も調査と実践を繰り返していく。